



2020年度からは『Zoom』を使って、リモートで行っています。

『同朋新聞』を読みながら、気になったことや日頃の悩みなどを語り合っています。
新型コロナウイルスの影響によって行事を開けず、会う機会も減っているなかで、お互いの近況報告や日々の生活のなかで感じていることを確かめ合う貴重な機会になっています。
スマホやパソコンを使い、ご自宅から参加できますので、興味のある方はお気軽にご相談ください。

日時 毎月第一日曜日

午後8時～8時40分頃

同朋新聞を読む会

ぶっせい

No.8

仏青報恩講

2022年3月7日、仏青報恩講を執り行いました。

正信偈真四句目下・念仏和讃五淘のお勤めの後、池亀康温さんにご法話をいただき座談会も行いました。

池亀康温さんは、小松教区の勸導寺の法務員として、2012年から勤めてこられました。今年3月末で退職し、自坊のある北海道に帰られるということで、お別れ会も兼ねてご講師をお願いしました。

仏青では2018年度から、「僧侶とはなにか」「僧侶としてなにをするのか」を、会員である若手僧侶が法話形式でお話する連続講座を開いてきました。池亀さんにも、「お坊さんって？」というテーマでお話いただきました。



・教えのバトンが繋がってお寺がある
・教えのバトンをつなぐお手伝いをさせていただきたい
・人に響く法話ができたとしても自分の手柄ではない
・法話とは教えの伝わる「きっかけ作り」だと感じている
・儀式の大切さ
など、様々なことを勸導寺での十年間で教えられたと、実体験をまじえながらお話しされました。
座談会では、池亀さんの僧侶を志したきっかけもお聞きしました。自坊の報恩講で、講師の方が涙を流しながらご法話をされていた姿が、子どもながらに印象深く、仏教や僧侶に興味がわいたそうです。
まさに法話が教えの伝わる「きっかけ作り」になると感じました。

編集後記

池亀さんのお話を通して、ご門徒お一人お一人と真剣に関わっているのか、日頃の法務を丁寧に勤めているのか、「教える側」に立ってしまっていないかなど、僧侶としての姿勢を見つめ直すことができました。

今年度も新型コロナウイルスにより、仏青事業の大半が中止せざるを得ない状況が続いております。人との接触をさける生活の中で、何気ない会話がどれだけ大切だったかを感じます。

お葬式も親族だけで行う事が多く、以前のように亡き人を偲びつつお参りをしたかったという話も耳にします。

新型コロナウイルスによって私たちが今まで当たり前感じていたものが今一度問い直されているのではないのでしょうか。

(会長 面俊)

フェイスブック やっています

活動のお知らせや報告をしています。『小松仏青』で検索か、QRコードを読み取りください。

